

ヴェネチア・ビエンナーレ 日本館 環境に配慮した施設とする改修工事が完了

ヴェネチア・ビエンナーレ日本館は、公益財団法人石橋財団より、このたび環境に配慮した改修工事のご寄付をいただきました。5月10日より始まる第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展における日本館展示「中立点」（主催：国際交流基金、キュレーター：青木淳）でリニューアル・オープンいたします。つきましては、貴媒体でのご紹介やご取材を何卒よろしくお願い申し上げます。

記

■日本館 概要



①改修を経た日本館全景 ©Andrea Martiradonna

日本館は、石橋正二郎氏（株式会社ブリヂストン創業者）がその経費の大半をまかなうことによって、1956年春に開館した国有財産です。ル・コルブジェに師事した吉阪隆正氏の設計による、国際的でありながら、日本的なものを感じさせる斬新なデザインは、床面中央に下のピロティにつながる穴、ピロティから庭を回遊して階段を登り上層の展示室入り口に至るアプローチ、ガラスブロックの天井から降り注ぐ陽光、天井のルーバーで自然光が間接照明となるなど、光、空気、人の回遊性をテーマとしています。2014年には、吉阪の設計意図を極力回復する改修工事が行われ、竣工当時の表情を取り戻しました。

一方で、気候変動は国際的な美術界における最も喫緊の課題のひとつとなっており、環境やSDGsへの様々な取り組みを意識する機運が高まっています。この課題に応え、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館を持続可能な施設にするべく、2014年の改修工事に引き続き、公益財団法人石橋財団による寄付の申し入れを受け、建築家・伊東豊雄氏による改修工事が行われました。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■改修工事の主なポイント

○太陽光利用

2014 年改修工事で設置した屋根上のポリカーボネイトを、光を通す透明ソーラーガラスに変更することで、太陽光利用を図ります。これにより、ガラスブロックの天井から注ぐ陽光を維持しながら、日本館の年間電気平均使用量の約 30%を賄うことができるようになりました。



②透明ソーラーガラス ©Andrea Martiradonna

○雨水利用

2000Lt (2 m³) の雨水貯留槽を新設し、庭園樹木への散水などに再利用すると同時に、ピロティの排水改善を図りました。

○断熱性の向上

既存建築を改変せず建物全体の断熱性向上のため、外壁面およびピロティ天井に、断熱塗料を塗布し、展示室の空調設備を最新のものに交換することで、省電力化を図ることができるようになりました。

○回遊性の向上

2014 年改修工事で設置したスロープに、更に階段を増設し、展示室から 1 階ピロティへの回遊性を向上させることができるようになりました。

○その他、日本館内および庭園の整備を行いました。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■公益財団法人石橋財団理事長 石橋寛氏のコメント

ヴェネチア・ビエンナーレ日本館に環境への配慮を加え、持続可能な建物にする改修工事をご提案させていただきましたところ、ご快諾いただき感謝いたします。2014年の修復工事に続き、この度の改修工事を石橋財団がご支援できましたのは、財団創設者・石橋正二郎の思いを継承する意味でも大変意義深いことと思います。国際的な注目を集めるこの場所で、今後さらに多くのお客様やアーティスト、建築家の皆様に親しまれ、様々な芸術文化活動の舞台として活用していただけることを願っております。

■建築家・伊東豊雄氏のコメント

ヴェネチア・ビエンナーレ日本館は1956年、ブリチストン創業者の石橋正二郎氏の尽力によって創設されました。吉阪隆正氏設計の建築は、ピロティやスカイライトなど斬新な提案で、多くのアーティストや建築家を世に送り出しましたが、建築の老朽化が進み、2014年に大幅な改修が行われました。

今回石橋財団の寄付により再び行われた改修は、世界的に求められるサステイナブルな環境に応えるべく、太陽光発電、雨水利用など自然エネルギーの利用を中心としたものです。

■持続可能な運営に向けて

日本館の維持管理と、同館での美術展および建築展の企画運営を担う国際交流基金は、この度の改修工事を踏まえて、可能な限りの資材等の現地調達、制作物等の再利用、地域に合わせた廃棄物の分別の徹底、など、これまで以上に環境に配慮した同館の利用を進めてまいります。

また各国館の有志により、「グリーン・ライオン」※と銘打って、環境に配慮した各国館の運営を進めるべく、さまざまな協力や、情報の共有、知見の交換、などを今後一層積極的に行うこととなり、そこに日本館も参加しております。

※「グリーン・ライオン」は、ヴェネチア・ビエンナーレの最優秀展示に贈られる金獅子賞（ゴールド・ライオン）にちなみます。

■ヴェネチア・ビエンナーレ（Biennale di Venezia）について

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリア・ヴェネチア市の市内各所を会場とする国際的なフェスティバルです。1895年に最初の美術展が開かれて以来、130年以上の歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際展が開催されていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、同様な国際展の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。ヴェネチアには現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭、ダンスの各部門があり、美術展と建築展は、現代の美術や建築の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の注目を集めています。

ヴェネチア・ビエンナーレ日本館公式サイト：<https://venezia-biennale-japan.jp/>

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ 広報用画像

画像を希望される方は、広報担当の熊倉、福島（press@jpf.go.jp）までご連絡ください。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、クレジット（©Andrea Martiradonna）を必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・事実関係確認のため、出版前に記事校正を広報担当者までお送りください。
- ・掲載誌または掲載記事を広報担当者までお送りください。



①改修を経た日本館全景
©Andrea Martiradonna



②透明ソーラーガラス
©Andrea Martiradonna



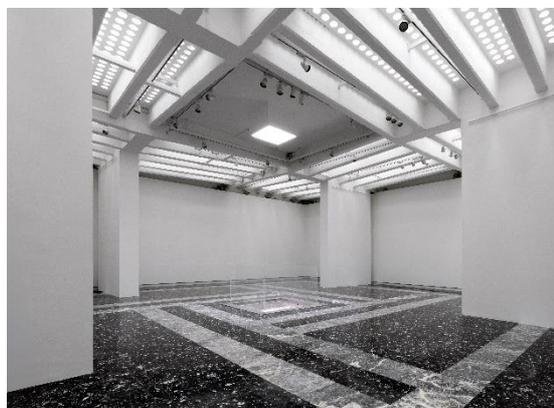
③日本館メインエントランス
©Andrea Martiradonna



④スロープに階段を増設
©Andrea Martiradonna



⑤ピロティ部分 ©Andrea Martiradonna



⑥展示室内 ©Andrea Martiradonna

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp